

## 財政

### 財政調整基金や財源は？

**Q** 財政調整基金が増えた主な要因は？

**A** 令和7年度末残高は約42億6,000万円で、前年度から約1億円増加した。積立ての主な財源は、前年度の繰越金だ。補正予算で約10億3,800万円を積み立てた。

**Q** 基金が増える中、扶助費などの見直しを今後どう考えるか？

**A** 歳入に見合った歳出とするため、扶助費などの見直しを実施した。見直しによる影響は、令和8年度以降に表れるため、今後の歳入・歳出の状況を踏まえて検討していく。

**Q** 市税の構成と収納状況は？

**A** 個人市民税と固定資産税で、市税全体の約9割を占める。今年度の収納率は99.1～99.3%、過去の滞納も含めると97.5～97.6%で推移。電子納税の周知や未納防止に取り組み、納付に応じない場合には厳正に対応する。

### 道の駅整備事業が、令和7年度で終了！

**Q** かかった総額は？

**A** 道の駅周辺整備に約21億9,000万円。道の駅リニューアルが約19億4,000万円、観光拠点施設が約9億5千万円、備品等が約5,000万円で総額約51億3,000万円だ。他に指定管理料が10年で約8億8,000万円だ。

## 教育

### 令和7年度の学校統廃合・老朽化対策の進捗は？

※令和5年度作成の老朽化対策・学校統廃合計画は、①佐屋小老朽化対策、②4中学校を2校に統合、③立田の2小学校の統合。

**Q** 7年度の検討内容は？

**A** 佐屋小の老朽化対策後及び中学校統廃合後のあるべき姿の協議をした。

佐屋小はグラウンド南側に2階建てとし、概算総事業費は、約80億9,500万円。永和中体育館は、グラウンド南側に配置し、約21億2,300万円を見込んだ。

**Q** 必要財源の目処は？

**A** 教育部局から市当局に、計画と必要額の説明はしたが、支出可能かの返答はない。

### 東北への中学生体験学習事業の学びと課題は？

**Q** 5,600万円を超える事業費だが、実施前後の意識変化は把握しているか？

**A** アンケートの結果から「災害時の怖さを実感するとともに命の大切さや助けられる側から助ける側への共助の意識が芽生えた」など意識を高めることができた。

**Q** どのような学びや行動変化が生まれたと評価しているか？

**A** 短期的な行動変化の把握は難しいが「課題を自分ごととして捉え、解決に向けて動ける生徒」への成長を期待している。

**Q** 令和7年度の課題は？

**A** 生徒の健康管理・天候による行程変更が困難。6つの中学校の行程が画一化され、学校独自の体験がしづらい、教員の負担が大きいなどが課題である。

## 消防

### 消防指令センター共同運用の効果は？

**Q** 名古屋市を含む8つの消防本部で共同運用が始まったが、共同運用前と後で比較してどのような効果が出ているか？

**A** 心肺停止など緊急度が高い事案では、管轄に関係なく最も近い消防隊員に自動で出動指令がかかる「直近指令」を運用している。これにより、現場到着時間の迅速化が図られ、住民サービスの向上につながっている。

### 消防団員の充足率は？

**Q** 消防団員の定数に対し、充足率は？

**A** 地域に差があり、充足率は78～95%だ。

**Q** 加入促進の取り組みは？

**A** あいさいさん祭りや地域の盆踊りで普及啓発やSNS等で団員募集の発信を行っている。

**Q** 令和7年度の入団数と退団数は？

**A** 入団34名、退団41名だ。

### 救急搬送の高齢者割合が約7割？

**Q** 救急搬送件数が増えているが、高齢者の割合は？

**A** 令和7年度の救急搬送3,188件のうち、65歳以上は2,190件で約69%だ。

### 消防車・救急車の突発的故障に予備費の充当はなぜ？

**Q** なぜ当初予算で見込めなかったのか？

**A** 定期点検・車検は当初予算で見込んでいたが、突発的なエンジン不具合やタンク車エアコンの修理、消防無線機の撤去・移設などが発生したため予備費を充当した。

